

「ハイテク浜松2001」

空き缶潰し機の展示を通して

(株)マッキンリー 三浦 貴信 ヤマハモーターアシスト(株) 澤村 昌勲
静岡第一テレビ 佐藤 邦弘 ポリテクカレッジ浜松 岡 達
(浜松職業能力開発短期大学校)

1. はじめに

浜松地方は、日本列島および東海道ベルト地帯のほぼ中央に位置して、南方には遠州灘、遠くは太平洋に面し、市の北西部には風光明媚な浜名湖を擁し、気候は温暖で交通の便（JR新幹線、JR東海道線やJH東名高速道）もよく、生活をするうえではこの上ない環境である。

古くから浜松地方は、繊維（遠州織物で知られている）関連企業、自動車（スズキ、ホンダ、トヨタ）およびその関連企業、オートバイ（ホンダ、ヤマハ発動機、スズキの3大メーカー）およびその関連企業、楽器（ヤマハ、河合楽器など中小合わせて数十社）およびその関連企業で繁栄してきた。

それに加えて、電気・電子機器関係、光技術、情報技術、金型、精密機械に至るまで、あらゆる企業が存在し、その企業規模も大企業、中小企業、零細企業あり、とさまざまである。

特に近年は、光技術、電子技術、情報技術などの分野では、目覚ましい進展が見られ、多くの企業が日常の研究開発と弛まぬ努力によって全国的、国際的にも有数の企業へと成長し、先導的な役割を果たしてきた。

「しかし、当地方における景気動向は、回復傾向にあるといわれているなかで、はっきりとした動きが見えない状況にある。このような厳しい経営環境を踏まえ、当地域における閉塞感を打破するためには、新たな産業の創出を早期に実現することが急務



写真1 開幕を報じる新聞記事

であると捉え、関係機関と連携を図りながら、環境の整備を……」（開催関係者）というのが、「ハイテク浜松2001」の開催趣旨のようである。

このような伝統と意義のあるハイテクフェアに、私たちが総合制作として取り組み、また今年2月にパシフィコ横浜で開催された「ポリテックビジョン2001」で、製品展示と研究発表を行った「空き缶潰し機」に幸運にも出品の機会を与えていただいた。

2. 「ハイテク浜松2001」の概要

「ハイテク浜松2001」は、浜松商工会議所と日刊工業新聞社の共催で例年開催され、今年で第31回目を迎える伝統のあるテクノロジーフェアである。

会場は県内でも屈指を誇る、浜松市総合産業展示館と西部地域地場産業振興センターで5月31日(木)～6月2日(土)の3日間開催された。期間中に県内外



写真2 入場を促す案内

から約32,049（5/31 6,588 6/1 13,769 6/2 11,692）人の関係者が会場を訪れ、ハイテク機器の見学や各種の講演会に熱心に聴き入っていた。

「IT時代のモノづくり」をメインテーマとして掲げ、創造技術、情報・ネットワーク、環境の3つの分野で構成されている。

また、特設会場では各試験・研究機関による成果発表コーナー、新技術・新製品の発表会、中小企業支援コーナーなどあらゆる角度から多彩な情報提供を行うなど好評であった。

3. 「ハイテク浜松2001」の主な内容

「ハイテク浜松2001」は、メインテーマを「IT時代のモノづくり」として掲げ、

創造技術
情報
環境

の3つの分野で構成された会場では、ITに即した「モノづくり」を支援する最新の機器、システム、製品、情報が展示、実演された。

また、特設コーナーでは、
試験・研究・教育機関などによる成果発表
新技術・新製品の発表
中小企業支援
などが開設され、好評であった。

主な展示内容

創造技術，生産支援機器関連部門

生産支援システム，CAD/CAM，計測機器，センサー，制御機器，自動化・省力化機器，物流機器関係など。

情報，ネットワークシステム関連部門

業務支援システム，情報/ネットワーク機器，関連ソフトウェア，マルチメディア関連機器など。

環境，リサイクル関連部門

環境技術・機器・製品，省エネルギー関連技術・機器など。

福祉，介護機器部門

車椅子，電動車椅子，福祉車両，介護機器・用品，福祉機器，移動・特殊入浴装置，在宅介護支援システムなど。

試験・研究機関による成果発表部門

各試験・研究，教育機関などによる最近の研究成果などをパネル，実物で発表。

参加機関として，静岡大学工学部，静岡県工業技術センター，静岡理科大学および当浜松職業能力開発短期大学校が参加した。

新技術・新製品発表部門

各出展者による最新機器・技術の紹介を展示場内の特設会場で実施。

中小企業支援部門

公的機関・金融機関による補助金・助成金・制度・融資などの説明会と相談コーナーが開設された。

バーチャル部門

インターネットホームページを利用したバーチャルデモンストレーションおよび実演会。

4. 「空き缶潰し機」展示の感想

現在リサイクル問題が大きくクローズアップされてきているということもあってか，関心が非常に高かったように見受けられた。

当ポリテクカレッジの空き缶潰し機の展示コーナーには，企業の方々をはじめ，一般市民や子ども連れ，学生達（近隣の大学や専門学校生）も多数訪れてきてくれた。

ある学生グループは、自分達も「空き缶潰し機」をぜひ制作してみたいと、熱心に質問したり実際に缶潰しの実演を繰り返したり、写真、VTRに撮っていたのが印象的であった。

多くの展示会では、よく「手を触れないでください」とか「触らないでください」との看板を見かける。

今回の「空き缶潰し機」の展示においては空き缶をできるだけ多く収集準備し、多くの見学者に自由に（実演）体験していただいた。

そのなかでいろいろな質問や感想、アドバイスをいただいた。

その一例をあげると、

制作期間、費用はどれくらいかかったか
制作するのに苦労した点、難しかった点
潰すときの音が大き過ぎるので、もう少し静かにできないか

潰すときの音が豪快で、見事に潰れるのでストレスを十分発散できる

もう少し軽量、コンパクトにできないか
ペットボトルも潰せないか

アルミ缶も潰せるか

いろいろな大きさの缶も潰せるか
アルミ缶とスチール缶の分別はできるか
取扱いが簡単で子どもでも潰せて（操作できる）、うまく潰れるので楽しい

飲み残しの缶やまだ一杯入っている缶の場合にはどうなるか

缶以外のものが投入されたら……

間違っって手を潰すことはないか

もっと機能を増やせないか

構造、からくりが外からも見えるのでよく理解できた

デザインの的にもっと垢抜けできないかなどについての貴重な改善・改良についてのアドバイス、感想をいただいた。また、商品化についての相談やアドバイスも数件いただいた。

また、「ハイテク浜松2001」のご縁で介護福祉機器の設計開発を進めておられる企業の方、機械設計事務所、新製品開発を手掛けておられる方々とも良



写真3 興味深く見入る見学者

いコミュニケーションがとれるようになったことも、大きな収穫の1つと感謝している。

5. おわりに

今回の展示会では、思いのほか大きな反響があり、なかには商品化に向けての問い合わせや商品化に向けての貴重なアドバイスなどを受けた。ありがたく感謝の気持ちを表すとともに、お礼を申し上げます。今後、

缶の投入数と投入方法や方向の改良
内容物が入っていた場合の対策
空き缶以外の異物の混入対策
機械自身の軽量化とコンパクト化
缶の種類別の分別
安全対策と安全機能の充実
潰し機構の改良

など、実用化に向けては解決しなければならない問題もたくさんあるが、それらは今後の課題としたい。

最後になりましたが、「ハイテク浜松2001」に私たちの制作作品の出品について、快く実現させてくださった浜松商工会議所をはじめ、後援団体および各関係機関の皆さまにありがたく感謝致します。

また、「ハイテク浜松2001」の開催がウィークデイであったにもかかわらず、就職先のご配慮で新入社員である私たちに参加の便を与えていただいたことに会社の方々に感謝致します。

この場を借りて、厚くお礼を申し上げます。